

プーチン、オランダ、メルケルのウクライナ問題会談

—— “建設的” 実行可能な案が進行中

February 7, 2015

RT (Russia Today)



ロシア大統領プーチン、フランス大統領オランド、ドイツ首相メルケルによる会談は建設的なもので、ミンスク合意の実践を目指す共同文書が作成されそうだとクレムリンの報道官ドミートリ・ペスコフは話した。

参考記事：「プーチンがモスクワの密室でメルケル、オランドと会う」

<http://rt.com/news/229999-merkel-putin-hollande-moscow/>

「フランス大統領とドイツ首相の提案を基にして、現在、ミンスク合意の実践について、実行可能な共同文書の文案作成の共同作業が進行中だ。これはウクライナ大統領ポロシェンコの提案と、ロシア大統領プーチンがきょう提出する提案を含むものになるだろう」と、3者会談が金曜日、モスクワで終わった後、ドミートリ・ペスコフは発表した。

<https://www.youtube.com/watch?v=a5hvS65qvpE#t=77>

彼は、この文書は出来上がり次第、ウクライナ紛争の両当事者に提出され、承認を求められるだろうと説明した。ペスコフはこの会談を、「建設的、情動的、かつ実質的」と特徴づけた。

会談の初段階の結果は、“ノルマンディ 4 か国”——露、仏、独、ウクライナ——の間で、日曜日に電話で議論されるだろう、と彼は言った。

フランス政府はこの会談を「建設的で有意義」だったとみている、と RIA ノボスチは、オランダ政府のメディア・ソースを引いて報じた。一方、ドイツの情報筋は、このウクライナについての文書には“ノルマンディ 4 か国”リーダーのそれぞれからの提案が含まれるだろうと言っている。

「現在、ミンスク合意 [ウクライナ休戦協定] を結実させる、実行可能な共同文書の作成が進行中である」とフランス情報筋は報じた。

これはまた、ドイツ政府の報道官シュテフェン・ザイベルトの声明でも確認された。

<https://soundcloud.com/rttv/saving-ukraine-ct>

フランス大統領フランソワ・オランドとドイツ首相アンゲラ・メルケルは、金曜日夕刻にモスクワに到着した。彼らはまっすぐにクレムリンに向かい、ウラジミール・プーチン大統領と、ウクライナ危機について 4 時間に及ぶ会談を密室で行った。会談と会食のあと、オランドとメルケルは帰国のため空港へ向かった。

この会談の重要性は、詳細が秘密になっていることに現れている。RT のマリア・フィノシナは、クレムリンからの報道で、記者は 3 人の写真を撮るのに 30 秒しか与えられず、彼らの誰も、撮影の間は記者団に一言も話さなかった、と言った。

「ミンスク協定」——東ウクライナの紛争をやめる合意——は、9 月、ベラルーシ首都での会談の後、キエフ、自称ドニエツクおよびルガンスク人民共和国、ウクライナへのロシア使節、それに「欧州安全保障協力機構」(OSCE) によって署名された。

この文書は、双方の休戦を要求し、ドンバスでの紛争解決の方策を求める 12 のポイントをあげた。これに続く覚書では、重兵器の撤退、30 キロメートルの緩衝地帯設定、攻撃を仕掛け戦闘を行うことの禁止、また OSCE 監視団を設ける、などを含む、休戦を強制する具体的手段をリストしている。

<https://www.youtube.com/watch?v=7c2LOirOLWI>

この休戦合意は、最初、捕虜交換とか、戦闘の激しさの減少などで、成功だったとして喜ば

れた。しかし1月になって戦闘が急速にエスカレートし、キエフ政府と反政府軍は、当時半ば政府軍に占領されていた、ドニエツクを中心空港の攻撃が始まったのを、互いに相手の仕業と主張した。キエフ軍は、空港を失った後、軍事行動を拡大し、ドンバス各市の砲撃を激化させた。自称高官たちは激しい言葉でこれに応じ、仕返し攻撃をすると約束した。

もっと最近になって、戦闘の劇的なエスカレーションによって、ドニエツクとルガンスクの間、デバルツェボ市東部が戦闘地帯になり、市民たちが激しい砲撃にさらされた。破壊された戦車や装甲車が街路に散らばった。地方の民兵軍戦士たちは、この地区の市民たちのための人道的回廊を交渉したと言っていたが、これは後にキエフによって確認された。

<http://rt.com/news/229759-ukraine-humanitarian-corridor-civilians/>

しかしデバルツェボ市民の疎開は、そもそもの初めからスムーズにはいかなかった。RT記者を含む、ロシアのジャーナリストたちは、市近くの検問所で狙撃され、民兵軍が応戦した。RTのローマン・コサレフによれば、市民グループのいた場所から「2, 3メートル離れた所を弾丸が飛んでいた」。幸い、誰も弾に当たりはしなかった。

参考記事：「RT記者を含むロシアのジャーナリストが東ウクライナで銃撃される」

<http://rt.com/news/229951-russian-journalists-shelling-ukraine/>

<https://www.youtube.com/watch?v=MESUpTQHrEs>

プーチン、メルケル、オランダ間のモスクワでの会談は、アメリカがウクライナに致命的兵器を送ろうと考えていた時に一致する。この行動は、その最も親密な同盟者のイギリスやドイツでさえ、現在の危機を悲惨な結果に導くと考えている。

ミュンヘンの安全保障会議のときのインタビューで、英防衛長官マイケル・ファロンは、ロイター通信に対し、彼は、ドイツとフランスのリーダーの、ウクライナ紛争をやめさせようとする努力を完全に支持しており、キエフに武器を送ることは、紛争をエスカレートさせるだけだと語った。

同時に、ドイツ外相のフランク・ヴァルター・シュタインマイヤーは、ウクライナ紛争を軍事的に解決することはできず、世界のリーダーたちは、「銃口による問題解決を試みる」べきではないと強調した。

“ワシントンとキエフの問題であり、パリとベルリンの問題ではない”

ウクライナ危機に関して、ワシントンとヨーロッパ両首都の間で広がっていく亀裂は、気づかれないわけにはいかない。この紛争の解決の道に障害物を作っているのは、アメリカとキエフだということは、冷静に見ればわかることだ。

参考記事：「ウクライナに武器を送ることは暴力をエスカレートさせるだけ——英防衛長官」
<http://rt.com/uk/230043-fallon-ukraine-weapons-statement/>

Post-Examiner 紙のコラムニスト Martin Sieff は、モスクワの金曜日の会談について RT にこう語った——「やがて内容を見ることになると思います。休戦の実現へ向けての重要な進展が見られると思います。メルケル首相とオランダ大統領は、遅まきながら、ウクライナで起こっていることの深刻さを認識したようです。彼らは崖っぷちから引き下がろうとしています。彼らはキエフ政府を抑えようとしています。交渉による解決を強く支持していません。問題はワシントンとキエフにあるのであって、パリとベルリンではないでしょう。」

シーフによれば、この紛争の「中心的悪役」はキエフ政府で、彼らは西側に後押しされてきたが、今ではそのコントロールを離れ、現実の場面で、自分自身のルールでプレイしようとしている。

<https://www.youtube.com/watch?v=fRjZhnTFQCw>

「西側がポロシェンコ大統領を作ったのだが、彼は多くの点で、犬を振る尻尾です。彼らは彼を抑えることができるとは限らない。彼は悪役だが、今度の場合はジョーカーです」とシーフは言った。

もしワシントンがこれからさらに、アメリカの強硬路線派が要求するままに、ウクライナに武器を送ったら、それは「非常に危険な手」になる、と彼は言い、オランダとメルケルの方が、ウクライナ危機の解決に関しては「はるかにより大きな責任感」をもっているように見える、と付け加えた。

「私は彼ら [米政府] が、ウクライナの現場の本当の状況を見ているとは思えないし、彼らがこれを、アメリカが直面しているもう一つの危機である中東という、より大きなコンテキストの中で考えているとも思えません。中東では彼らは現在、ISIS [イスラム国] を封じ込めようとしています。ISIS を封じ込めることは、イラクとアフガニスタンという 2 つの消耗する戦争の後では、アメリカにとっては、手に負いかねることです。彼らはウクライナに、アメリカの武器も支援も、欲しいだけ与えるような余裕はありません。それはアメリカにとって間違い沙汰で、帝国主義的なやり過ぎでしょう」とシーフは言った。

この時評家によれば、紛争を解決するためには、米大統領バラク・オバマと米 국무長官ジョン・ケリーは、「自分たちの傲慢を呑み込んで、プーチン大統領と純粋に両方向的な関係をもう一度始める」必要がある。米露の関係が「世界で最も重要な戦略的關係」だからだ。問題は、現在のウクライナ紛争に対する西側諸国の責任と、ロシアにとっての、この地域の発展の戦略的 중요さと敏感さについて、ワシントンで議論がなされていないことである。